

2025 年度の活動報告

総務

(1) 会員数

- ・ 2025 年度は入会者 10 名、退会者 1 名であり、年度末の会員数は 87 名となった。そのうち女性会員は 29 名 (33%弱) である。
- ・ 入会者 10 名 (敬称略)
水永啓子 (5 月 27 日付) 鈴木志歩 (7 月 14 日付) 武隈知世 (7 月 15 日付)
野呂朋子 (7 月 15 日付) 川崎千祥 (7 月 17 日付) 杉山紗弥佳 (7 月 26 日付)
藪田仁一郎 (8 月 1 日付) 高松啓輔 (8 月 14 日付) 丸山伸孝 (9 月 12 日付)
牧野由佳 (2026 年 2 月 6 日付)
- ・ 退会者 1 名 (2026 年 3 月 31 日付)
秋田祐一郎氏

(2) 年会費収入

2025 年度の年会費納入者は 87 名、収入額は 256,500 円と、2024 年度の 321,000 円に比べて 64,500 円の減収となった。その理由は 2025 年度の会則改正により、正会員と学生会員の年会費をそれぞれ減額したことによる。

(3) 会員紹介

SRID Newsletter 「新会員紹介」において 5 名の新入会員が自己紹介を行った。

高橋舞子 「司馬遼太郎氏に憧れて歩んできたキャリア」 2025 年 5 月号

山田直之 「島社会から世界の舞台へ」 同 9 月号

丸山伸孝 「技術の現場から見た水インフラ・開発協力・カーボンクレジット制度：
問題意識と今後の取り組み」 同 12 月号

藪田仁一郎 「途上国の計画づくりを支援」 2026 年 2 月号

高松啓輔 「UNIDO から見た国際協力の転換期」 同 3 月号

全体行事

(1) 第 52 回年次総会 (対面とオンラインで開催)

- ・ 2025 年度の総会は 4 月 26 日(土) 12:00~14:00 に JICA 地球ひろば大会議室で対面と Zoom によるハイブリッドで開催した。参加者は 14 名 (来場者 8 名、オンライン参加者 6 名) であった。任期中に死去された湊前会長に代わり、松田代表幹事が開会の挨拶と司会を担当した。2024 年度活動報告及び同会計・監査報告の説明後、挙手による採決を行い、いずれも全会一致で承認された。

- ・ 会員増加と経費削減により剰余金が 200 万円を超過しており、今後経費の増加が予想されない、懇親会の飲食費は原則として参加者の自己負担とする、などの理由により、年会費の減額が提案された。全会一致で会則改正案が承認され、年会費を以下のとおり減額した。正会員 4,000 円→3,000 円 学生会員(院生) 3,000 円→2,000 円 同(学部生) 1,500 円→1,000 円。
- ・ 幹事会が推薦した林会員を会長とする役員改選案が全会一致で承認され、林薫会員が SRID の第 12 代会長に選出された。幹事の固定化を防ぐために人材を広く求める、帰国者や経験者に打診する、40 代、50 代、60 代から一人ずつ出すといった年代別 Quarter 制を導入する、一部の管理業務については外注も含め報酬の支払いを考慮する、幹事会を隔月開催にしてはどうか、といった意見が出された。
- ・ 2025 年度の予算案及び活動計画は一部修正の上、全会一致で可決された。Newsletter 5 月号(No.548)に議事録を掲載した。

(2) SRID Webpage の改訂

2025 年度予算案にシステム開発委託費は計上されていなかったが、サーバの切替えをきっかけに、これまで寄せられてきた要望や問題点にまとめて対応すべく、2025 年 9 月から IT 専門家に委託して改訂作業を進めてきた。大きな改善点は、これまで「会員エリア」として個人のブログ・サイトに保管されていた多くの文書等を SRID のサーバ上に全て転送し、サブページを構成し直して簡単にアクセスできるようにした。この中には創立 50 周年アーカイブ（50 年間の紙記録をデジタル化した長期時系列データ）も含まれている。巻末の別紙 2 を参照(玉置)。

幹事会

第 1 回幹事会

5 月 14 日(水) 鈴木幹事よりキャリア開発事業の IDPC 研修を無理なく継続できるように、コース設計、デリバリー方法、運営管理方法を根本的に見直すとの説明があった。林会長より SRID Facebook を活用して Free Talk Room を開設する提案がなされた。

第 2 回幹事会

6 月 12 日(木) 懇談会の録画とプレゼン資料を SRID のアセットとしてサーバに保管すること、また講師とテーマを毎回自由に選択して話を聞く新たな勉強会方式が提案された。IDPC 研修の日時と運営方法の改革案が提示された。

第 3 回幹事会

7月9日(水) オンライン懇談会、SRID ジャーナル第29号、IDPC 研修の準備状況や勉強会の実施状況、SRID ホームページの改訂の必要性について報告された。

第4回幹事会

8月13日(水) 7月中に6名が入会して会員数が85名となった。SRID ホームページの改訂内容とIT 専門家への業務委託について玉置幹事より説明があった。事務局用パソコンの更新が承認された。鈴木幹事よりシンプルな勉強会が提案され、了承された。

第5回幹事会

9月11日(木) SRID ホームページの改訂仕様書と委託料金見積書が承認され、9月20日に契約書を取り交わすことになった。TICAD9 横浜大会のサイドイベントに参加した松田代表、小林幹事、神田幹事より情報提供があった。

第6回幹事会

10月8日(水) 9月20～21日に開催されたIDPC(国際開発プロフェッショナル研修)に19名(うち日本人8名、途上国留学生11名)が受講。高い評価を受けたとの報告があった。2026年2月にSRID フォーラム2025を開催する予定。

第7回幹事会

11月12日(水) ジャーナル編集委員会の立て直しとジャーナル第30号の発行について議論した。IDPC の今後の検討課題として、インターンの活用と受講料の適切な設定が明らかにされた。Homepage 改訂に伴う委託作業の進捗状況が報告された。

第8回幹事会

12月10日(水) Homepage 改訂に伴う委託作業の報告があり、追加作業による委託費の値上げを了承した。2026年2月21日(土)に開催予定のSRID フォーラム2025の内容について議論し、ジャーナル第30号で取り上げる「ポリシー論」に連動させることを決めた。

第9回幹事会

1月14日(水) 幹事会役員をはじめ、各委員会委員の固定化・高齢化により活動の継続性について懸念が強まっている。こうした状況を打開するために、開発関係の仕事、あるいは国際機関から退職したばかりの人を会員にリクルートしてはどうか、といった議論があった。

第 10 回幹事会

2 月 11 日(水) SRID 会計規約の改正、国際機関の採用状況とキャリア開発事業委員・講師会の対応、フォーラム 2025 の準備状況、Website 改訂作業の終了と委託費の支払を了承。幹事の若返り・増員、及び事務局の作業分担・効率化等について議論した。

第 11 回幹事会

3 月 11 日(水) アジェンダや議事録の改訂を効率的に進めるために、ファイルを OneDrive で共有し、担当者が各自で更新・改訂することにした。新年度における幹事の増員と事務局の補助員について検討。事務局の業務内容を整理して詳細な事務局マニュアルを作成し、会員からの応募がなければ必要に応じて公募する。

第 12 回幹事会

4 月 15 日(水) 第 53 回年次総会議案書を議論した。会計規約の改正案(会員に対する講師謝金の支払い)について検討の上、総会で議決することとした。

懇談会 (オンラインで開催)

- ・ コロナ禍の為に 2020 年度よりオンライン開催とした懇談会は、2025 年度目標の計 4 回の開催ができた。毎回、SRID 会員 25 名程度を含む、定員 100 名を超える参加申し込みがあり、SRID の対外発信プラットフォームの一つとして、引き続き定着している。
- ・ オンライン開催と合わせて、グーグルフォームによる懇談会参加申込を採用していることで、幹事の負担が大幅に軽減されている。さらに、グーグルフォーム書式内に SRID 入会の有無、及び SRID ジャーナル配信希望とキャリア開発塾カウンセリング受講希望に関する質問を入れていることで、それぞれの申込増加に繋がっていると思われる。
- ・ 以前の対面懇談会後に開いていた講師を囲むネットワーク懇親会は、オンライン開催のため残念ながら開催できていない。懇談会報告は引き続きそれぞれ直近のニューズレターに掲載した。(小林_文)

第 1 回懇談会

5 月 21 日(水) 20:00～22:00 講師:北野尚宏氏(早稲田大学教授) テーマ:「中国の開発協力の動向」

第 2 回懇談会

7月29日(火) 20:00-22:00 講師:森田宏子氏会員(元国連経済社会局持続可能な開発部チーフ) テーマ:「国連と小島嶼途上国(SIDS)の相互依存と新たな展望」

第3回懇談会

12月16日(火)20:00~22:00 報告者:汪牧耘(おうまきうん)氏 テーマ:「開発学の『生態系』における日本と中国—彷徨する自他認識を編み直す—」

第4回懇談会

3月17日(火)20:00~22:00 講師:田村由美子長崎大学教授(元ADB駐日代表) テーマ:「アジア経済の歩み:過去半世紀の変容と開発」

SRID フォーラム (ハイブリッドで開催)

2022年2月のロシアのウクライナ侵攻後4年にもわたり戦争が継続しており、また、2025年1月に発足した米国トランプ政権が、アメリカ第一主義を掲げ、USAIDの廃止、WHOやパリ協定からの脱退、恣意的な関税政策を進めているなど、大戦後の国際協力の枠組みや国際秩序が揺らいている。こうした状況を背景に、今年度の第8回SRIDフォーラムは、「**混迷する世界と国際協力—multilateralismの危機に今どう対処して行くか**」をテーマに、2月21日(土):12時00分~15時15分(日本時間)、JICA地球ひろばの2階大会議室、(対面とZOOM)で開催された。参加者は会場参加者15名、ZOOMなど参加者14名、計29名(会員の30%)であった。終了後の懇親会には11名が参加した。(神田)

<SRID フォーラムプログラム>

会長挨拶:林薫会長

パネル1:国際開発を巡る環境の変化(モデレーター:神田幹事)

- ① 米国・欧州・日本の政策変更と国際開発への影響(松田代表幹事)
- ② 国連の改革(UN80 Initiative)により、SDGsを含めたMultiの開発政策や協力体制はどのように変わっていくのか(森田宏子会員)
- ③ 世銀の改革の動き(高田雄輝会員)
- ④ 現場での変化—南アを主体に(原祥子会員)
- ⑤ 質疑(議論)

パネル2 新たな国際秩序を探る(モデレーター:玉置幹事)

- ① Polycene (ポリシーン)とは: T.L.Friedman 氏の問題提起 (小寺清会員)
- ② 問題提起へのレスポンス (林薫会長、高橋一生会員、山岡和純会員)
- ③ 質疑 (議論)

閉会挨拶 (松田代表幹事)

ニューズレター

No. 547 (2025 年 4 月号)

黒田和秀: 自論公論「ニューヨーク便り: 国際情勢を揺さぶるアメリカの動向」

福田幸正: エッセイ「ある日本人の百年ぶりの帰郷」

No. 548 (2025 年 5 月号)

事務局: 第 52 回 SRID 年次総会開催報告

加藤珠比: 会員図書紹介「Changing Dietary Patterns, Indigenous Foods, and Wild Foods: in Relation to Wealth, Mutual Relations, and Health in Tanzania」

高橋舞子: 新会員紹介「司馬遼太郎氏に憧れて歩んできたキャリア」

No. 549 (2025 年 6 月号)

李チエンウェイ: 自論公論「消えゆく国境」

小林文彦: 第 1 回懇談会報告 講師は北野尚宏氏「中国の開発協力の動向」

山下道子: 官民連携勉強会 (特別枠会合) 報告 講師は Peter Morris 氏「ミャンマー大地 震後の災害復興及び平和構築のための官民協力」

No. 550 (2025 年 8 月号)

高千穂安長: 第 2 回懇談会報告・講師は森田宏子会員「国連と小島嶼途上国 (SIDS) の相互依存と国連大機構改革の影響」

澤田直孝: 第 1 回官民連携型開発協力勉強会報告・プレゼンは澤田直孝会員「官民連携型開発協力の概要」

福田幸正: エッセイ「サンサルバドルからの絵葉書」

No.551 (2025 年 9 月号)

高橋正貴: 第 2 回官民連携型開発協力勉強会報告・プレゼンは Stratos Tavoulareas 氏

山田直之: 新会員紹介「島社会から世界の舞台へ」

山下道子: TV 番組紹介「アフリカの砂漠化と人材育成」

No.552 (2025 年 11 月号)

林 薫：自論公論「Envelopment 一タ張から考える」

山下道子：第3回官民連携型開発協力勉強会報告：プレゼンは落合直之会員

森田宏子：2025 女性のためのオンライン懇談会報告

No.553(2025年12月号)

山岡和純：自論公論「SRID ジャーナルの新たなパラダイム」

高橋正貴：第4回官民連携型開発協力勉強会報告：講師は宮島智美氏

岩波美智子：新会員歓迎サロン報告

丸山伸孝：新会員紹介「技術の現場から見た水インフラ・開発協力・カーボンクレジット制度：問題意識と今後の取り組み」

No.554(2026年2月号)

林 薫：第3回懇談会報告：講師は汪牧耘氏「開発学の『生態系』における日本と中国— 彷徨する自他認識を編み直す—」

鈴木博明：第5回官民連携型開発協力勉強会報告：発表者は鈴木博明会員「ソーシャルアセットとしてのコンビニの活用」

藪田仁一郎：新会員紹介「途上国の計画づくりを支援」

No.555(2026年3月号)

神田道男：SRID フォーラム 2025 開催報告

高橋正貴：第6回官民連携型開発協力勉強会報告：発表者は砂川眞会員「モンゴルにおける官民協力事業：ツーステップローンについて」

高松啓輔：新会員紹介「UNIDO から見た国際協力の転換期」

SRID ジャーナル

(1) 編集委員会の開催

2025年度は山岡和純編集委員長以下、小寺 清、高橋一生、玉置佳一、福田幸正の各委員5名により編集委員会を構成した。編集委員会は4月15日(火)、6月21日(土)、11月17日(月)の3回開催し、各号の企画立案、編集方針の検討および進行管理を行った。

(2) 第29号及び第30号の発行

- ・ 第29号を2025年8月2日に発行した。特集のテーマは「激動する世界におけるアフリカと日本-グローバル・パートナーシップ」とし、両者の対等な立場の協力を理想の姿とする新たな協力の視点に立つ議論の展開を促した。また、前号に引き続き論説等に英語のタイトルとアブストラクトを添え、英語圏読者へのアピールを図るとともに、新たな試みとして英文論説に全文和訳(編集委員会文責)を添えた。

- ・ 第 30 号を 2026 年 1 月 8 日に発行した。本号は、「歴史の転換点に立つ—世界文明の変容のただ中で」と題する編集委員会による巻頭言と、過去に本誌に掲載された論考の中から選定した 20 編の再掲論考で構成し、ジャーナル 15 年の歴史と先見性を踏まえて世界の今後を論じる記念号とした。

(3) 外部配信者数の増加

2026 年 1 月時点でのジャーナルの登録読者リスト(約 600 名)をあらためて整理・分析した結果、配信が確実に届いているアクティブな読者は 523 名、そのうち 414 名が所属を明らかにしており、国連・国際機関(49)、大学(153)、中央官庁(15)、JICA 等(57)、研究機関(15)と、国際開発の専門的・実務的世界に属する読者を 289 名確認できた。以上より、本誌は国際開発分野の実務・研究コミュニティに対する一定の到達力を有する媒体として定着しつつあると評価できる。(山岡)

キャリア開発事業

以下の通り事業を実施した(表 A 参照)。

- (1) キャリア開発カウンセリング: 12 名(うち7名は IDPC 受講生)に対して実施した。
- (2) ロスターの作成・運用: 累積 106 名登録。
- (3) IDPCNo.5 を 9 月 20 日、21 日に実施。日本人 8 名、外国人留学生 11 名計 19 名参加。5段階評価の平均 4.5 価を得た。
- (4) 国際開発分野で働く女性のためのオンライン懇談会シリーズ「開発現場で活躍する女性のワークライフバランスとサーバイバル法」を 10 月 17 日に開催。
- (5) キャリア開発に役立つ情報の提供: 「SRID キャリア開発」を 3 月と 9 月に配信。「SRID キャリア開発」が 2025 年 3 月で 10 号目となることを機会にデザインを一新。
- (6) 会員のキャリア形成、研究、教育活動に資するために、2024 年 10 月に開催した IDPCNo.5 の講義動画及び関連教材を SRID HP の会員エリアに公開した。
- (7) キャリア開発事業が支援した受講者が就職した国際機関は、累計ベースで UNDP、UNIDO、UNWoman、World Bank、IFC、ADB、AIIB 等。
- (8) IDPC は事業経費を全て受講料で賄った。直接コスト(講師謝金および Intern 謝金)を回収し、間接コスト(管理コスト等)はボランティアで賄ったため、支出は事務経費の送金手数料 1,980 円のみであった。(鈴木)

表 A. 年度別キャリア開発事業実施状況(2016~2025 年度)

活動内容	2016～22計		2023		2024		2025		2016～25計	
	件数	受講者	件数	受講者	件数	受講者	件数	受講者	件数	受講者
学生団体と連携協力	13	123	終了	終了	終了	終了	終了	終了	13	123
カウンセリング	125	140	15	15	8	8	12	12	160	175
出張講座	63	1,122	0	0	1	20	0	0	64	1,142
IDPC 研修	3	32	1	21	0	0	1	19	5	72
女性フォーラム (注)	3	146	1	30	0	0	1	35	5	211
合計	207	1,563	17	66	9	28	14	66	247	1,723
【広報活動】 ロスター登録者数(累計)	31		47		87		106		271	
【広報活動】 『SRID キャリア開発』	4		2		2		2		6	

勉強会

新たな勉強会の設置

2025年度の年次総会で「官民連携型開発協力に係る勉強会」の設置が承認された。その後、下記の通り7回の勉強会がオンラインで開催された。(松田)

特別枠 6月4日(水)20:00～21:30 発表者:Peter Morris氏(テンプル大学 Law school 特任講師) テーマ:「ミャンマー大地震後の災害復興、及び平和構築のための官民協力」 開催報告: Newsletter No. 549(2025年6月号)

第1回 7月16日(水)20:30～22:00 発表者:澤田直孝会員 「官民連携型開発協力の概要」 開催報告: Newsletter No. 550(2025年8月号)

- 第2回 8月20日(水)20:30~22:00 発表者:Stratos Tavoulareas氏「電力エネルギー技術開発—構想から実用化までの官民協力;The Valley of Death」開催報告: Newsletter No.551(2025年9月号)
- 第3回 10月9日(木)20:30~22:00 発表者:落合直之会員「ビジネスの平和への貢献(Business for Peace)」開催報告: Newsletter No.552(2025年11月号)
- 第4回 10月30日(木)20:30~22:00 発表者:宮島智子氏「教育分野の官民連携について」開催報告: Newsletter No.553(2025年12月号)
- 第5回 12月4日(木)20:30~22:00 発表者:鈴木博明会員「ソーシャルアセットとしてのコンビニの活用」開催報告: Newsletter No.554(2026年2月号)
- 第6回 1月27日(火)20:30~22:00 発表者:砂川眞会員「官民連携プロジェクト:モンゴルにおけるTwo Step Loan」開催報告: Newsletter No.555(2026年3月号)

SRID サロン

新会員歓迎サロン (対面で開催)

2025年11月22日(土)11:00~13:00

Newsletter 12月号(No.553)に概要と写真を掲載。

第14回サロン (オンラインで開催)

2026年3月10日(火)20:30-22:00

発表者:①高橋舞子会員「UN Womenの官民連携活動:UA, WEPs, HeForShe」

②杉山紗弥佳会員「途上国インフラ政策の実施過程に関する研究:スリランカ灌漑事業における主体間の政策資源の差異に注目して」

Newsletter 4月号(No.556)に概要を掲載予定。(山下)